

注 容量の関係で図版を削除しています

## 「地域・自然の中で生き生き学ぶ総合学習」

～真光寺川から地域を学び直す～

大川 敏明

### 。はじめに 4年2組と地域・たんけん

4年2組の子ども達は3年生で「柿」の実践に取り組みました。なぜ柿を教材に選んだのか？最も大きな理由は、鶴川小学校周辺は、「禅寺丸」という柿の産地であり、発祥の地であることです。柿生（かきお）といわれる地名が生まれるくらいの柿どころだったのです。

禅寺丸柿は、600年もの歴史があり、昔は献上柿（明治天皇に献上された）と言われたほど有名な柿でした。しかし、今は市場に出回ることもなく、町田の名産品「禅寺丸ワイン」や地域の販売所で売られている程度です。

この地域で柿を学んでいくと、必ず禅寺丸柿にぶつかります。頭で分かるよりも、自分の足で出かけ、目で見、インタビューする、そんな学習をより実感ある学びとして感じ取る3年生の子ども達です。そこにある柿畑が生きた教材であり、地域で出会う人が先生になります。先生の話よりも友達の報告、友達の報告よりも自分がインタビューしてきたことや実際にやってみたことのほうが、なぜかその子の中にしっかりと根づく。そんな姿を昨年の取り組みの中でも感じました。子ども達は1年間で13回（社会科と総合学習）のたんけんにてかけています。

この実践は地域の3回の黒川柿探検と子ども達の聞き取り調査によって支えられています。柿を追いかけていくことで、地域の移り変わりや柿に関わる人々、大切に守りつづけている人たちとの出会いがありました。その一部を紹介しておきたいと思います。

---

#### < 黒川探検で大発見！ >

学習のスタートに、黒川にある販売所で買ってきた禅寺丸柿を小さく切って食べました。すぐに柿だと気づいた子どもたちでしたが、次の日からさっそく教室に柿が持ち込まれました。近所にあった柿、家で買った柿が4種類。名前の分からないものばかりです。先の禅寺丸柿の名前も明かしていません。全部で5種類の柿が集まり、さっそく調査することにしました。大きさも形も違う柿は同じなのか、違うのか？黒川の柿はどの柿と同じなのか？

まず、はスケッチをしてから、黒川柿探検に出かけようと子どもたちに提案しました。黒川は、古い農家が残っていて、自然豊かな里山の風景の残っている場所です。他にも、りんご・とまと・栗・梨・田など、子どもたちの学習材が豊富にあるところです。

この探検では、班ごとにどこにどんな柿があるのかを地図やカードにスケッチしながらの探検でした。その時にいっしょに持っていった5種類の柿の写真がとても役に立ちました。畑や歩いている人達にインタビューした子どもたちが、その写真を見せて、それぞれの柿の名前を聞いてきたのです。富有柿、次郎柿、そして禅寺丸柿。特に禅寺丸柿は、地元の名産であったことと、一番あまい柿だということを聞いてきました。

もう一つは、黒川には意外に柿が多いという感想を持った子どもたちが出てきました。「黒川の人は柿が好きだから、あんなに柿が多いのかな」という新聞の発表が新たな疑問として生まれてきました。

#### <集まる集まる柿が40種類>

柿の名前が話題になると、次々に柿が届くようになりました。発端は、探検で聞いてきた名前の対立です。じろ柿なのかじろう柿なのか？ふゆ柿とは冬柿と書くのか？

柿とともに実は富有（ふゆう）柿と書くのだということが届いたり、いなかから送ってきた柿が持ち込まれたり、その数は40種類を越えました。さくらんぼのように小さいまめ柿、細長い西条柿、種のない平種無柿など、名前の分かるものから近所になっていた柿まで様々です。柿は写真をとって掲示していきます。日に日に柿の写真が増えていきます。

中でも、西条柿はしぶ柿だということで、甘くなる前のものと一週間ほどおいで甘くなったものを食べ比べてみました。同じ柿だと思わなかった子どもたちも多く、渋いということを身をもって体験しました。

「しぶがきはすごーくしぶかったけど、ぐにゅぐにゅしているほうはすごーくあまい！でもどうしておいとくとあまくなるのか？それはわからない。だからもつとしらべてみようとおもった。」  
(きりか)

渋抜きに興味を持ったともやは、さっそく他の渋抜きの方法を調べてきました。

#### <禅寺丸のひみつ、黒川の柿のひみつを追え！>

様々な柿の情報とともに、禅寺丸柿の情報も集まってきました。あきは禅寺丸は柿生（鶴川のとなり駅）付近で生まれたことを突き止めました。りりこは、禅寺丸が川崎市麻生区の王禅寺という寺の木の柿で、禅はこの寺の名前から取っ

たものだということをラジオで聞いたと報告してきました。

あきは実際に王禅寺に行って、禅寺丸の原木と、碑を見学して寺で話を聞いてきました。禅寺丸は630年前、戦で壊れた王禅寺を修理する材木をお坊さんが山に採りに行って、熟した柿を見つけ、それを寺に持ち帰って植えたものが広がったものだという事が分かってきます。

そして、230年後には、市場でたくさん売られるようになったことも分かってきました。

たきは、近所に禅寺丸柿に詳しい`しむらのぼるさん`という人がいることが分かり（NHKの番組にも出演した）インタビューに出かけました。そこで聞いて来たことや手に入れてきた資料は、その後の探検の中で、改めて裏付けられたり授業の教材になっていきます。

その中の一つに、『伝唱 禅寺丸音頭』というものがあって、しむらさんが作詞をしています。禅寺丸の生い立ちから移り変わりが詩になっていて、この柿を大切に守っている人々がいることを感じさせられました。

< なぞがでたらすぐたんけんだ！ >

禅寺丸が有名な柿らしいということが分かってきて、教室の中には一つの流れができてきました。「禅寺丸は本当に一番甘い柿なのか？」「黒川の人には柿が好きだからあんなにたくさんの柿の木があるのか？」というなぞと、もっと禅寺丸のことを知ろうということで、2回目の柿探検にでかけました。

黒川の探検は、1学期の社会をいれて6回目になります。子どもたちも歩き慣れていて、安心して班ごとの自由な活動が組めます。班に探検ルートを決めさせ、地図とトランシーバーを持たせて、一時間ほどの活動です。今回は人にインタビューしないと分からないよといって、農家を訪ねることが探検の目的になります。

それぞれの班が情報を持って集合場所に帰ってきました。さっそく新聞作りに取りかかります。

< 禅寺丸柿をなぜワインにするのか？ >

この探検では、今まで教室に持ち込まれた情報を裏付けるものが多く見つかりました。人の発表をちょっと聞くよりも、やはり、自分たちで出かけ、話を聞き、まとめたことは、子どもたちの中にしっかりと根付きます。そして、柿をもらって帰ってきたことが、子どもたちにとっては最高の出来事だったようです。

**今回の黒川たんけんのかんそうは、いろいろな人にインタビューして柿のことがよくわかった。またべんきょうになった。** (しょうたろう)

いろいろなおじさんにインタビューするときにドキドキした。とくに、ノックするときにドキ

**ドキした。でもたのしかった。**

**(けんと)**

禅寺丸は甘いということは、ほとんどの班がそうであることを聞いてきました。黒川に柿が多いのは柿生というくらいで、柿を生活の収入にしていたということが、子どもたちの中で明らかになりました。

もうひとつの発見は、禅寺丸柿がワインになって売られているらしいということでした。しばらくして、さっそくそのワインが教室に届きました。「なぜ、お金をかけてワインを造るのか」ということを子どもたちと考えました。

- ・めずらしいから人気ができる
- ・ワインだと大人にも人気ができる
- ・売れるから
- ・そのままの柿は子ども向けで、ワインにすると大人向け  
また、あたらしいなぞがでてきました。

<なぜ売れない禅寺丸柿？>

有名で、甘くておいしい禅寺丸柿は市場に出荷されていません。売れないということが分かってきました。ワインにするのも、そのままでは売れないからだということが分かってきます。なぜ？

子どもたちは、今までの学習を土台にして考えました。

- ・たくちかいはつやしぜんはかいですくなくなった
- ・あまりならなかったから、きめられたところでしかうっていない
- ・ふかんぜんあま柿だから、しぶいのがまじってしまう
- ・そだてても、かってくれるひとがすくない
- ・にんきがない
- ・ほかのくだものくらべるとあまくない
- ・見た目ではほかの柿のほうがおいしそう
- ・ちいさくてうりものにならない
- ・見た目がわるい
- ・やすすぎてうれない(かちがないようなかんじがする)
- ・禅寺丸の木にほかの柿をつぎ木して、すくなくなった
- ・黒川のきこうに合っているから、ほかでそだたないからほかではうっていない

その予想を持って、再び黒川にたんけん出かけました。そして、禅寺丸柿がどんどん減っている事、小さい柿で見た目も悪く、他の柿に負けてしまうこと、不完全甘柿で、渋いものを見分けることが難しいこと、種が多い事、木が高くなっ

て収穫が困難なことなどが分かってきました。そして、ワインにして広めようとしていることも分かってきました。

2 学期最後は、たきがしむらさんからもらってきたNHKの番組『柿の里』を見て、禅寺丸柿について学習してきたことをまとめました。

禅寺丸柿をせんぞからずっとまもってきたなんてすごいと思う。パッパサミを自由自在につかうなんてすごいし、柿をつくってたいへんじゃないのなか～？でも、ごせんぞからまもってきたのがいちばんすごかった。 (すみれ)

一本の木に1000このほどのみがあって、そのみがあまくなるまで15～20年かかるなんてすごい。かなりれきしがありそう。木が高くて、みも小さいからたいへんそう。とっても、うりものにならないのに、まだ育てている人がいるなんて、よほどみんなにすかれてるんだらうとおもう。これから、へっているけどのこってほしいとおもうよ。(さくら)

むかしはかきをおかずにしていたのか。かきはむかしから、ずっと人のたべものだったんだ。かきをあいする人はいっぱいいるのか。(みずき)

こんなにかきがおくぶかいなんてしらなかったよ。べんきょうになった。おもしろかった。(けんと)

すごいむかしはかきってめずらしいのかなあ。そんなにたいせつなんておもわなかったよ。かきはきらいだけだね。(みよんひ)

柿へのこだわりや自分たちがやってみたい、調べてみたいことが子どもたちの中に育ってきました。何気なく見ていた柿は、人との長い歴史があり、奥の深い物だということを感じとっている子どもたちの姿があります。そして、禅寺丸柿を育てる人、守る人たちの存在にも視野が広がってきました。

(この後、テーマ別活動へと広がっていきました)

以上3年生の総合学習より

---

地域に古くからある物・残っているものには、たくさんのおもしろい話が残っています。そして、関わりを持っている人がいます。昔の地域の様子を合わせて知ることができます。技があります。守っている・大切にしている人たちがいます。そこに、子ども達が主体的に、能動的に学習できる教材と条件がそろっているのだと思うのです。教師も手ごたえと興味をそそられる深さがあります。

そして、地域のたんけんに出かけ、人に交わり、自分たちの疑問を解き明かす中で、子ども達には自然と人間の様々な関わりが、生きた姿として見えてくるのです。このことを実感をとめない学ぶことは、子ども達にとって大きな意味のあ

ることだと思えます。

以下、今年の真光寺川の実践報告をしたいと思えます。

・ 真光寺川から地域を学び直す

## 思ったよりきれい？ 川との出会い

川の学習は、まず1度実際に川へ行くことが始めようと考えていました。子ども達からとったアンケートからは、生き物を採ってみたいという声が一番多かったのです。川で遊びたいとか、入ってみたいという声が続きます。川に目いっぱい親しむということが、子ども達の学習の入り口になり、また川のことを考えていく時の土台になると考えたからです。「自然を大切に」「川をきれいにしよう」と口で教えることは簡単ですが、本当に自分の中からそういった気持ちが、自分の持っている視点から湧き起こってくるからこそ大切だと思えます。そのためには、まだ4年生は体でくぐったり、具体的な物や生き物を通して考えることがとても大切だと思うわけです。

最初は手探りですが、まずは川と出会わせようと学年会では話し合いました。そこから子ども達は何を感じたり、考えたりするのだろうか。あまり気負わずに鶴見川の比較的安全できれいな場所、ある程度の生き物が採れる、そして、源流を守っている人たちの活動に大きな支障をきたさない辺りとして「宮橋」というあたりで活動しようと決めました。

5月8日とあって、まだ魚の姿はほとんど見られませんでした。採れたのはほとんどザリガニで、川底からどじょうが幾らかとれました。子ども達は今年の「鶴見川を伝える会」で、以前全国で2番目にきたない川だったということを知っていたり、宮橋あたりを知っている子もいて、「きたない」という漠然としたイメージを持っていました。

最初は、行く前から半分くらいの子も達は、「先生、入らなくてもいい？」と聞いてくるような感じでした。しかし、行ってみるとほとんどの子ども達が川に入りました。多くの子は、「思ったよりもきれいだった」という感想を持ったようです。

### なぜベスト3

### よだ なつき

- 1位 川にこみがいっぱい！でも生き物がいる！どうして？
- 2位 あそこにいるカモは何をたべているの？魚？コケ？水草？
- 3位 あそこは人工の川？しぜんの川？

鶴見川に行く前は、「鶴見川ってゴミがいっぱいいういてきたなそうだなあー」と思ったが、じっさい見てみたら、「思ったよりもきれいだなあ」と思った。さいしょは川に入んなかったけど、こうきが「入ってみなよ。たのしいぜ。」といたので入ってみたら（つめたーい）と思った。入った後はもう知らない。ずんずん歩いていると・・・ズボッ・・・あ・・・あ・・・足がはまったと思ったら、スルッ・・・（ああ、ぬけた）と思った。（まさる）

いきものをとったり見つけたりして、とつてもたのしかった。川につかってつめたくてきもちよかった。こんどいくときがたのしみです。（めいこ）

## 宮橋（鶴見川上流域）での活動

### やっぱり子ども達は川が大好き

真光寺川と子ども達の出会いは、1学期の2回目の探検でした。鶴見川上流域での、川に入ったり魚を採る学習は、源流を守っている人たちがいるのに無制限に行うにはいかない。そこで、一度近くにある真光寺川に足を伸ばしてみようということになったのです。鶴見川の支流ということもあり、その後、2つの川の合流点も合わせてたんけんしようと呼びかけました。

春先の真光寺川には、思ったよりたくさんの魚がいました。なまずの子ども、めだか、モツゴ、何かの稚魚、ザリガニなど子ども達は夢中になって採っています。下見に来た時は、「けっこうきたない」と思っていたのですが、子ども達にとってはまったく関係ないようです。

名残惜しそうに、真光寺川を離れた子ども達は、鶴見川との合流点にやってきました。川幅もずっと広く、流れも強いので、どんどん奥に行ってしまう子ども達にヒヤヒヤしました。

近くの人たちは、まず足もつけないだろうと思われる鶴見川で泳ぎ始める男の子達。女の子の会話も、なかなかのものでした

「先生、気持ちいいよ。やってごらんよ」（靴を脱ぎ、きたない川の水に足をつけ、うっとりしている）

「先生、バーベキューとかやっている人はいないねえ・・・」（ここは、川原ではないし、こんな所でやる人はまずいないでしょう）

きたなかるうが、そんなことは全然関係ないのです。そこに川があるから、入り

たい、生き物がいるから採りたい。それが自然の姿なのだと、改めて感じました。

### 真光寺川で初めての活動

- ・ 真光寺川はせまくてあまりきれいな川でないが、生き物がいて鶴見川より楽しかった。とれた生き物はなまずの子、ドジョウの子、フナの子、コイの子、小魚などたくさんとれた。
- ・ 鶴見川は水がけっこうきれいにつめたかった。ながれがつよくてころんじやった。  
(かせ)

かわのなか とてもつめたい きもちいい  
おさかなが かわをすいすい およいでく  
かわぎしで ふーとやすんで またあそぶ (あかね)

はじめに、真光寺川に行ってきました。アブラハヤ(これは違うだろうと思いますが)がたくさんいた。大きいコイがいた。長いへびもいた。いっぱい魚がいた。でもつかまえたのは、ほとんどちっちゃいのがあった。でも、前々鶴見川にいった時よりいた。鶴見川より真光寺川のほうがたくさんいた。・・・たのしかった。エビのぬけがらのようなものがあつた。いっぱいちいさなさかながいた。いちばんたのしかった川は真光寺川がたのしかった。(な・あきら)

### 「真光寺川に光を当てよう」

その後、1組も行き、大きなタモロコ、ヨシノボリを含む大量の魚を採ってきました。鶴見川・真光寺川にいた生き物を一覧表に整理してみました、その中でまだ自分達が見たり取ったりしていないヨシノボリを手に入れようと、四つ手網とお魚キラを持って真光寺川に出かけました。今度は思い切って、ずっと上のほうまで川を登って行きました。その日は、さらに大きな収穫があったのです。

さくらが岸の草むらに4つ手網をいれたら、50cmはあろうというなまずが採れたのです。中には、「逃がしてあげたら」「かわいそうだ」という声もあり、どうするか考えたのですが、さくらは強く「持ち帰りたい」という意思を示しました。普段みんなの前では強く自分を主張しない彼女は、生き物好きで、今回の総合を楽しみにしていたようだ。昨年それほど柿にはのめりこまなかった彼女が、今年は少し違っていました。家でなまずを飼う準備をせさせして、家に持ち帰っ

たのです。( ざんねんながら、池から飛び出して死んでしまったのですが、後にな  
 まずは大きな学習材となります )

真光寺川にいた生き物	鶴見川にいた生き物
なまず(小) ヒル ホウネンエビ? コイ ヨシノボリ ヤゴ ドジョウ アメリカザリガニ フナ(小)(大) モツゴ タモロコ(小) ホトケドジョウ? アブラハヤ?	フナ(小) アメリカザリガニ ヤゴ ニホンザリガニ ドジョウ アブラハヤ シマドジョウ ホトケドジョウ スナヤツメ
コサギ アオダイショウ	ヘビ カモ アヒル

それから、魚とりに魅せられた子ども達を休み時間に真光寺川に連れて行く  
 ことになりました。時間がないので、午前中の休み時間にしかけをいれて、昼に  
 取りに行ったり、ロング昼休みに弁当持ちで出かけたりと数名の子ども達を車に  
 乗せて川にかよう日が続きました。

そんな豊かな生き物が採れる真光寺川に、だんだんと惹かれていくものを感じ  
 ました。入り口は生き物でしたが、この短い川の周辺には、今まで学校が蓄えて  
 きた多くの人材があり、ただ魚を採っているだけで、実に多くの人に声をかけら  
 れるのです。

また、「真光寺川を清流にする会」というものが、新聞に掲載されるなど、今後  
 の可能性がある川だと思ったからです。1学期が終わるころ、真光寺川に絞った  
 学習にしようと思心しました。

<なぜ、真光寺川を選んだのかを1学期終わりにまとめて見ました>

3年生の能ヶ谷探検で、子ども達は真光寺川の大部分を歩いている。源流は  
 学校のすぐ近くであり、全部を歩いても数キロの川である。何度も歩き、調  
 査し、親しむことができる。

豊かな生き物がいて、安全に川に入れる場所がある。まだ、自然や田が残さ  
 れている場所が近くにある。

カモにえさをあげる人、カメラを持って河川敷を歩いている人など、短い時  
 間の中でも、川と何らか関わっている人がたくさんいることが分かる。

開発の真っ只中にあり、川・山・森林などの関係を考えられるし、今後どの  
 ようになっていくのかが注目される川である。

地域と学校のつながりの中で、たくさんの情報を得られる人が多くいる。ま  
 た、「真光寺川を清流にする会」が発足し、活動しているなど出会わせたい

< 2 学期の学習計画 >

**総合学習「鶴見川」指導計画 2 学期**

4 年 2 組編

取り組み方...・学習の主軸を鶴見川から真光寺川に移し、調査や探検を進める

- ・ 学習の記録をビデオにまとめる
- ・ あわせて本としても残したい

学習のねらい

真光寺川の生き物や自然に触れるなかで、川に対しての親しみを深める

自分達が今までに経験してきた川と比較しながら、真光寺川の全容を捉える

真光寺川の今・昔を調べる中で、人々の生活と川のつながりを知る人・物・生き物などを自分たちで調査し、まとめるなかで真光寺川のこれからを1人ひとりが考えてみる

自分たちの学習や考えをまとめたり、人に伝える手段として、ビデオ・本作り・生き物マップ作りに集団的に取り組む

子ども達の生き物に対する興味に答えるものとして、真光寺川水族館づくりにも取り組んでいく

指導計画

**真光寺川の最初の一滴を追え**

夏の自由研究を元にして、真光寺川源流の様子を調べる。クラスを3グループに分け、同時に探検に行く。

A、幼稚園駐車場裏コース B、鶴川サナトリウムコース C、鶴川街道コース

ビデオを撮ってきて報告し合う

水はどこで増えていくのだろう \*生活廃水

**消えた真光寺川のなぞ**

- ・ 三和までを歩く。田畑で使われている川の水.....人との出会いを作りたい

安藤さん

(インタビュー隊)

- ・ 暗渠の入り口と遊水地の出口で水量が違うのはなぜか？

あ、住宅都市公団に聞き取り・どこを通っている？なぜ暗渠にするのか  
ミニ探検

い、遊水地探検 暗渠の出口  
ミニ探検

う、真光寺公園調査  
大探検

川が消えてしまった所に住んでいる人にインタビュー \*暗渠

### コンクリートで囲まれた真光寺川

遊水地からビューティースワンまでを歩く 魚を獲り調査する 石川さん  
・昔の川の様子をインタビュー 水の使われ方 神蔵さん  
・住宅地になる前の河川敷 地域の人の真光寺川体験を聞く 桑原さん

### 川の流れが変わった？

- ・昔の流れと今の流れを地図で比べる
  - ・ビューティースワンから合流点・片平川までを歩く
  - ・なぜ川の流れが変わったのか 調査チーム
- \*開発と治水

### 真光寺川に清流を

清流をとりもどす会の人達との出会い  
昔の真光寺川のことや自分達の疑問を聞く  
\*自分たちが望む真光寺川の将来

<子ども達の活動形態>

学級を 真光寺川ビデオ製作グループ  
真光寺川パンフレット製作グループ  
真光寺川生き物マップ製作グループ  
真光寺川水族館製作グループ

の4グループに分けて、学習の成果をまとめ、形にしていく

\*パンフレットは、パソコンを使用も考えていく(子どもが作業をする)

\*子どものイラストや写真なども貼り付けて作っていく

各活動にともなって、ミニ探検隊や休み時間や放課後の活動なども組んでいく  
(学年会の資料から)

---

### 真光寺川最初の一滴をさがせ

2学期になって、本格的に真光寺川の実践を始めることにしました。子ども達には1学期の終わりに、真光寺川の事をもっと勉強していこうと提案してい

ました。生き物がたくさんいて、たくさん情報をくれる人が鶴小とつながっていること、これから川がどうなっていくかが決まる大切な川だということ、身近にあって全部をあるくことができることを理由にあげました。

2学期のスタートとして、源流探検をすることにしました。真光寺川を勉強しようという呼びかけから、夏休みの自由研究（全員に川に関わる取り組みを課題にしていました）に真光寺川のことが幾つも登場してきました。その中にりょうの真光寺川の地図とフィールドワークの記録がありました。そこに、最初の一滴までいったという写真がありました。その発表を聞き、みんなで行ってみようと切り出しました。

担任もせっかく身近で、手のひらに入る大きさの川なのだから、川の最初から最後までを子ども達と歩ききろうという思いを持っていました。夏休みの間に自分の足で最初の一滴を見に行きました。学校の駐車場から入っていけるほど身近にあるのに、今までいったことがなかったのです。ずっと気になっていたその場所にやっと思って行ってみました。草を踏み分け、竹やぶをくぐり、なんとすることは無いじとじとした場所がそこにはありました。鶴見川の源流のように、こうこうと水が湧き出ているわけではありません。しかし、こんな小さなながれが幾つも集まり、あの真光寺川の流れになっているのです。

川の最初はいったいどうなっているのか。子ども達のイメージと実際の姿の違いを感じさせたいと思いました。地図で見ると、今は大きく3つの流れがあります。もうひとつ昔は沢があったのですが、今は鶴川台の開発のためになくなってしまいました。

学校のすぐ周辺にあるので、引率の先生を2人頼んで3箇所同時に（希望をとって）探検に行きました。3グループに分かれてのたんけんということもあり、自分達の班はどこに行くかで子ども達も盛り上がっていました。子ども達に最初の一滴の予想を書いてもらいました。

私がいったAコースは、学校の駐車場の脇の栗林に入り、竹やぶをくぐり小さな流れをたどります。晴天が続くと、水はほとんど枯れてしまいます。それでも、ちいさな穴が開いていて、ザリガニがその奥で生きています。

子ども達は生き物がいると、夢中になって写真を撮ったりメモしたりしていました。道なき道を抜けると、水の流れは行き止まりになり、確かに流れているのが分かる所にでました。数日前に雨が降ったこともあり、地面から水が湧き出ている場面にめぐり合うことができました。

「すげー、わいてるぞ！」と子ども達が集まってきました。

その後、もう一本の伏流になるのでしょうか。家の横や畑の中を潜り抜け、黒川に通じる道の入り口まで進んでいきました。まさに生活廃水が多く集まっ

ているという感じでした。

学校の駐車場近くまで戻ってきたとき、一人のおじさんに声をかけられました。昭和 39 年からここに住んでいるという赤荻さんという方でした。「俺は、昔からここに住んでいるから、一番詳しいぞ」とほたるがたくさん飛んでいた様子や、普段はどぶ程度の真光寺川源流が、あふれそうになった話など、たくさんのお話を聞かせてくれました。ちょっと足を伸ばせば、随分と学習材があるものだと思います。

A コースは学校のすぐ裏にある栗林から続いています

子ども達はどのように感じたのでしょうか。

#### A コース

わき水があってびっくりし。でも、わきみずで川ができたみたいでふしぎだった。竹やぶがすごくとおりにくかった。竹やぶをでだとき、きゅうにわき水があってびっくりした。(りりこ)

コオロギやトンボがいた。と中からちよろちよろながれていた。力がうっとうしかった。竹やぶにあしをとられた。わき水がわいていた。のめるかな？でも、きたなそうだった。こんなちよろちよろの水が真光寺川にいくとはすごい。あんなにたいりょうなのに。(な あきら)

#### B コース

最初のほうはすごくきれいだった。チョロチョロやぶの方から水がくるのが見えた。生活用水がででくると、急にきたなくなった(も なおこ)  
さいしょのいつてきは、ぬまだった。それに川というよりどぶだった(けんと)

#### C コース

とつてもつかれたけど、よくわかったのでよかった。(よそうは・・・ほとんどわき水はない。)(本当は、いっぱいあった)(みょんひ)

C コースにいったはるかが、土管の中に石を投げたら、カワセミが飛び出してきたという報告もありました。今後一つの学習のきっかけになるかなと思いました。

## 「カマツカ発見！オイカワが混じっている！」

1学期に獲った水槽の魚を夏休みになるので、全部逃がしてしまいました。9月の最初の土曜日、クラスの親和会（父母会）が企画したお楽しみ会が、多摩川の羽村取水堰で行われました。子ども達は1日中川で泳いだり、魚を採ったりして楽しみました。釣りをしている人には、コイやウグイをもらいました。また、お魚キラーでたくさんのアブラハヤもとりました。（アブラハヤは水温の関係なのか、なかなか生き続けませんが）モツゴもたくさん採れ、また水槽がにぎやかになりました。

「もっと川に行きたい」「魚をとりたい」という声は、2学期になって源流たんけんより前から聞こえていました。このたんけんが終わってからすぐに、子ども達と真光寺川のいつもの場所に魚獲りにいきました。何回か繰り返すうちに、子ども達の獲り方も上手くなってきたようでした。

今回は大量の魚に混じって、カマツカが2匹混じっていました。お魚キラーに混じっていたのですが、おそらく周りで子ども達が動き回り、水底に隠れていたカマツカが逃げ込んだのでしょう。かせはさっそく持ってきた図鑑をめくり、水槽に移したカマツカについて調べていました。学年で4回魚採りにいって初めて採れた魚に大変愛着をもったようでした。次の授業の準備をしていて、神奈川の減少種に加わっていることが分かったので、彼に伝えると、ますます特別な魚になっていったようでした。

秋まつりの取り組みが始まり、カマツカはさっそく独自のキャラクターとして登場します。鶴川小学校では、10月にまつりの広場とおどりの広場という取り組みを中心にした行事があります。まつりの広場では、総合学習ら関連した商品を作り売ります。その中で絵葉書やカレンダーの絵になって登場したのです。一匹は大きなコイに突付かれて死んでしまったので、もう一匹は別の水槽に入れて大切に飼っていました。しかし、ある朝水槽のふたのわずかな隙間から飛びだして死んでしまいました。とっってもざんねんがっていたので、魚拓をとっておくようにすすめました。

また、タモロコ・モツゴに混じってオイカワの子どもが3匹ほど見つかりました。子どもたちにとっては、お楽しみ会でいった羽村取水堰で出会っている魚です。自分でも、クラスのお楽しみ会の場所に決定してから、3回ほど個人的に通い、きれいな緑と赤の婚姻色をしたオイカワを追いかけていました。その魚がまさか真光寺川にいるとは、驚きと興奮でした。さっそく教室でみんなに紹介しました。誰かが放したのか、それとも細々と生き長らえているのか？しかし、段差のある川なので、限られた範囲の中で生息しているようです。生

き物好きのかせは、後のカワセミ調べの時に、合わせてオイカワについても意欲的に調べていました。

たくさんの魚が教室に戻ってきて、再び水槽はにぎやかになり、子ども達も活気づきました。「より大きな水槽を」という声もあり、だいゆう・たかひろ達のグループも水換えなども自主的に行うようになりました。夏美は家からこいの子どもを何回かに分けて持ってきて、学校で世話をしています。

「なまずが減っている」

たんけんで新たな魚を捕まえたことで、学習したいことができました。カマツカ・オイカワが生きている真光寺川、短く小さな川ですが、まだまだ魅力がある川であることを子ども達と確かめたいことです。カマツカはある程度きれいな砂地がないと生息できない魚ですし、オイカワも酸素の豊富な流れのある川に生きています。そんな魚たちがこの都市河川に生きていなんて、まだまだすてたもんじゃないと思うのです。

もうひとつは、1学期に大小混じって捕まえることのできたなまずです。真光寺川最初のたんけんで多くの子が手にとり、もどってきてからはしばらく水槽で生きていました。「えさは何だろう」から始まり、「小魚が食べられた」とさわぎにもなったなまずは、2度目のたんけんでさくらが大なまずを捕ってから、すっかり子ども達の関心事になっていました。

そのなまずが神奈川県では急激に減っているという情報があり、カマツカも準じていることが分かったことです。なまずの減少の原因は宅地開発により、急激に田んぼがなくなっていることです。真光寺川も、能ヶ谷地域の開発が今、急激に進んでいて、区画整理によって田んぼがなくなり、水源地でもある能ヶ谷の山すらなくなってしまいました。そこに、あらためて目を向けさせたいと思いました。

**えっ、すごい変っているじゃん！**

さくらの捕まえた大きななまずの記憶が残っているうちに、その生態と能ヶ谷地区の環境の変化を捉えさせたい。能ヶ谷の大きな変化、それは、3年生の3学期の社会で扱った「能ヶ谷たんけん」でも考えたことです。すでに子ども達は、遊水地から平和台入り口までを歩いています。区画整理で田んぼが潰され、開発真っ只中の所を全員が歩いているのです。しかし、その時はほとんど

の子ども達が、田んぼのある風景から突然工事の真っ只中という変化について、印象を受けなかったのです。

今回は、なまずを通してということで、なまずの立場になってその変化を見てみようということなのです。

カマツカが、なまずが神奈川県レッドデータの減少種に載っている。子ども達にとっては、衝撃的な授業のスタートになりました。

さくらの捕まえた大なまず

進む能ヶ谷の開発

なまずの生態については、NHKスペシャルの「里山」の中から抜粋して見せました。田んぼが産卵場所であり、稚魚が育つ格好のすみかなのです。こういうビデオを見るときの子ども達の目は違います。(実はこれも、3年の時全編を見たのですが)また、図鑑の記述を見ると、水底や岸に隠れる場所が必要ということでした。

子ども達はナマズが減っている理由を予想しました。「ブラックバスに食べられた」「たくさん捕りすぎた」「生活排水で水がきたなくなった」などの意見が出されました。

いよいよ、能ヶ谷の今の写真と、5・6年前の同じ場所の写真を見せました。

「えっ、すごいかわっているじゃん!」

「山がなくなっている」

「田んぼが家になっちゃった」

子ども達に初めて、その開発による変化が意識された瞬間でした。いつもこの能ヶ谷付近を真光寺川に沿って歩いて帰っていた、けんやりようは、「そうなんだよ」「すげーんだよなー」と口々に説明していました。

なまずが産卵し、稚魚が育つ田んぼはことごとく減っていました。わき水の出る山もなくなってしまいました。また、なまずは水底に隠られる岩や隙間が必要だということも資料からつかんでいきました。周りがコンクリートになって住む場所を奪われているのです。

カマツカもきれいな砂地の水底が必要ということで、最後に鶴見川上流の三面コンクリートの川の写真を見せました。(ここは2年前、4年生のたんけんの引率補助で、まだ自然のまま川だった場所です。夏休みに行ってみたら、コンクリートで固められていました。)  
「そんな、川があるのか・・・」  
「真光寺川は二面だよなあ」と、これ以降「三面コンクリート」という言葉が頻繁に使われるようになりました。子ども達が川を見る時のひとつの基準になっていったようです。

むかしは山があったのに（能が谷）今はない。ちかごろの人間はおかしい  
（けん）

田んぼがなくなってさかながいなくなっていやだ。川をきれいにしてほしい  
（りょう）

しんこうじ川のまわりが、あんなにかわってたのかと思った。  
（みずき）

なまずとかへっているのがよくわかった。すこしまえの田んぼとか、いっき  
にかわっちゃったりしてるからびっくりした。  
（きりか）

こんなに川のまわりがかわったりして、（しんこうじ川）びっくりした。うち  
の近くの境川はきれいだったのに、きたなくなって（工事で）生き物や木も減  
ったよ。もう五年たつとどんな川になるのか心配だな。  
（すみれ）

最初のビデオはすごくナマズの事がよくわかった。田んぼがへっていたりね  
まわりがコンクリートになって住みにくいこともわかった。まわり（真光寺川）  
のようすが大きく変化していた。  
（も・なおこ）

## カワセミを発見し隊に取り組む

行田校長が始業式の時に、真光寺川でカワセミを見たと話をしてくれました。  
最初の一滴探検で、はるかたちがカワセミを見たという報告もあり、カワセミ  
を発見し隊を作ろうと提案しました。子ども達はすぐに賛成しました。

さっそく個人の調べ学習から班新聞を作って報告し合うことになりました。  
子どもたちは生き物のことを調べるのが好きです。学校の図書室やインターネ  
ット、自分の家から持ってきた本を使って夢中になり調べていました。

教室にたくさんの図鑑が持ち込まれました。な あきら・ゆりえ・すみれ、  
インターネットで手にいれた写真を持ってきたさとみ、あきととるいは、野鳥  
図鑑や百科事典の中にカワセミの鳴き声がいっているCDを持ってきて、み  
んなに聞かせていました。

班新聞をみんなで読み、いよいよ探検に出発しました。るいが真光寺公園に  
カワセミが来るといふ情報を持っていたので、そこを目標にして行きます。

真光寺公園は、真光寺川の支流の1つで、以前は水源地であった場所にあり  
ます。ここは谷戸の行き止まりの場所にあり、バス停も「下谷戸入り口」など  
というものがあります。しかし今は、鶴川第2土地区画事業によって大規模な

開発が行われ、住宅地となってしまいました。この公園の前には大きなマンションが立っています。いわゆる真光寺川 4 つめの最初の一滴であり、行ってみたい場所のひとつでもありました。

各班が調べまとめた新聞から、カワセミの食と住について真光寺川に住んでいる可能性について、話し合ってから探検を迎えたのでした。食は十分にある。後は巣を作る土手があるかということで、巣穴探しも目標になりました。

## カワセミの巣発見

飯盛神社あたりから鶴川街道あたりにかけて、田畑の脇を流れる真光寺川に沿って歩きました。まだ、土がむきだして、小さな小川という感じの真光寺川をみながら、「ザリガニがいた！」と大騒ぎです。そのうち、草に隠れた小さな穴を見つけて、「先生、カワセミの巣発見！」と騒ぎ始めました。そうするとあちらこちらから、「これもだ！」声があがり、写真をとっていました。事前の学習で巣の写真も見ていたので、それにイメージに近いものは、すべて「巣」という感じでもりあがっていました。(おそらく、ほとんどがちがうのかもしれませんが)

あかねも冷静に、「やっぱり、カワセミはいるんだよ。」とつぶやいていました。

まだ、カワセミが住めそうな場所      ここからカワセミが飛び出してきた

本当にカワセミがいた！

真光寺公園にむかって、班ごとにあるきはじめました。住宅地よりのコースし鶴川街道よりのコースに分かれて出発です。最初の一滴を見に行ったときのカワセミ発見場所を、子ども達はていねいに調べていました。道路をくぐる鉄製の土管の中です。子ども達はこの土管を「4面コンクリート」と呼びます。

鶴川街道に沿って歩いていくと、まだ、田畑がわずかにあり、カワセミが巣をつくれそうな場所もあるなと思いました。

真光寺公園につくと、遊水地にカワセミの姿はなく、子ども達は思い思いに遊びはじめました。そんな中で、真光寺公園の管理人さんと出会い、いくつかの情報を得ました。去年、都市整備公団で聞いた話とは少し違って、驚きました。

・あれは自然の池でなく、遊水地である

- ・水質は悪化する一方。こいにえさをあげたりする人がいる。新しい水がまったく入ってこない。
- ・ブラックバスを放している人もいる
- ・以前は公園の奥の水源からきれいな水が湧き出ていた。池ができたころはとてもきれいだった。
- ・水源は枯れてしまった。都市整備公団が作った地下から水をくみ上げるポンプを2～3年ぶりに動かしたが、地下水が枯れてしまっていた。
- ・もう、魚が住める限界に達している。水がかれたのは、栗平のほうのマイコンシティができて、山をくずしたから

真光寺川に住むカワセミを見つけた

真光寺公園の池

そんな話を聞いて、水源池跡を見てから、再び池にいきました。すみれとじゅりとなつきが後から来たのですが、すみれが突然「あっ、カワセミがいた！」池のずっと奥の木の枝に、確かにカワセミがとまっていたのです。ざんねんながら、ビデオを担当していた子どもが近くにいなかったもので、写真に豆粒のような姿を写すのが精一杯でしたが、カワセミ生息の証拠をつかみました。管理人さんに聞くと、けっこう姿を見せるようです。

### こんなに変わってしまったのか

真光寺公園に行ったのをきっかけに、休日にこの公園から続いている尾根道を歩いてみました。能ヶ谷から続く谷戸の北側の山です。学生の頃に一度この尾根道を歩いたことがあります。まだ豊かな自然が残っていて、道の両側はうっそうとした森でした。

歩いてみてびっくりしました。昔の面影はまったくありませんでした。尾根のすぐ横はもう企業の建物なのです。舗装された道が走っています。栗平側には木すらなくなっていました。真光寺側もすぐ近くまで住宅が来ていました。かろうじて残っているのは、昔からあった地主さんの竹林だけでした。

正直いって、こんなに変わっているとは知りませんでした。真光寺のほうから見ると、まだ山や木が残っているように見えます。しかし実際は、薄っぺらくって、線のような自然が、まるでどこかから切り取られて置いてあるようなものでしかなかったのです。水源が枯れてしまうのも無理はありません。あらためて、真光寺川も瀕死の状態なのだと思います。

この変化と川のことを子ども達と考えたいとそこで思いました。カワセミの

生息にも、真光寺川やその周辺の生き物にも大きな影響があることです。カワセミを切り口にしながら、この谷戸の変化、森林と川の間係を教材にしていこうと、このフィールドワークで決めました。

栗平側の景色

わずかに残る尾根道

### カワセミは来なくなってしまうのか

その後の授業で、撮ったカワセミの写真を紹介しながら、授業をしました。カワセミ用の護岸ブロックなるものがあることも分かりました。コンクリートの護岸材なのですが、カワセミの巣穴用に穴があいているのです。また、蛇よけのためのかえしも付いているのです。子ども達は口々に「いいね。それ！」と言っていました。

そして子ども達には、真光寺公園にいるカワセミがいなくなってしまうかもしれないと話しました。驚いた子ども達に、管理人さんから聞いた話をしました。そして、なぜ水源や井戸が枯れてしまったのかを予想してみました。

- ・おんだんかのせい(けんとう)
- ・木とかが水をとった(じゅり)
- ・地下水の土がくずれおちた(な あきら)
- ・ポンプで水をくみあげすぎた(ひろし)
- ・こう水になるくらいの大雨が少なくなった。てんきがずっと続いた(めいこ)
- ・川の流れるかわってしまった(あつひろ)

そして、もう一度真光寺公園に出かけていきます。今度はそこから山を登って尾根道を歩き、栗平側の様子を見てくるのです。(時間がなくて、教室に戻ってからビデオをみてスケッチしたのですが)

水源地跡には、数日前に雨が降ったこともあって、前回はまったくなかった水がながれていました。確かに流れが確認できるのです。まだ、幾分か保水力は残っているのでしょうか。また、尾根道に上がる公園の階段からも、水がわきでていました。子ども達は写真を撮ったり、ビデオを回していました。

尾根道から見えるマイコンシティ、真光寺側も、すぐ近くまで宅地が押し寄せています。子ども達は昔の様子を知らないのです、そんなに興味をいだきませんでした。しかし、最後に尾根道の切れ目の工事現場に立ち寄ったことが、とても意味あることになったようです。剥き出しになった土、流れた跡のある土

砂、ひび割れ崩れかけた斜面・・・・・・水溜りに足を突っ込んだりしながら、子ども達には印象深い風景になったのでしょ

う  
また、子ども達はタヌキの足跡らしきものをみつけたのです。犬のものなのかははっきりしませんが、今でもここ周辺にはタヌキがいるらしいということでした。

たぬき？の足跡

工事現場のひび割れ

### はっばってそんなに役にたつんだ

水源はなぜ枯れたのか。学校の雑木林の様子と、例の工事現場の姿を比べながら、なぜ、土が流れていたり、ヒビが入っていたりするのかを考えていきました。何が違うのか？それは木があるかないかだと気付きました。

ねっこの働き、落ち葉の保水力などが語られ、昨年社会の授業で使った模型を使って再び実験しました。斜面の下にといが付いていて、水が流れるようになっているものです。緑のタオルを敷くと（これが落ち葉が積もってできた土でのかわり）、そうとうの水を流しても水は流れ出しません。2度目の実験になるわけですが、今回のほうがよく理解できたようです。タオルを持ち上げて、「まだ、しみてこないぞ。すげえ！」声もきこえました。

実際に土を敷いて水を流してみると、工事現場にあったような地面の模様（水の流れ、いっしょに土の流れた跡）ができました。木がないと土もどどん流されていくのが理解できたようでした。

子ども達が本当に納得したのは、都市整備公団でビデオに撮ってきた、開発前と開発後の鶴川台とマイコンシティの模型を見てからでした。これだけ木がなくなれば、水を貯めておくことなんてできないと理解できたようでした。

真光寺町の今と昔（都市基盤整備公団で見せてもらった模型から）

草も木もないと、川や生き物がピンチなのがよくわかったよ。むやみに木や草を切っちゃいけないと思った。  
(すみれ)

じめんでなんか土がわれていたことは、さいしょじじんであいうふうになったんだなーと思ってたけど水でなったとははじめてした。

(けん)

たんけんで私はただたんけんにいっただけだと思ってたけど、先生はちゃん

と考えていたとわかった、カワセミのピンチもわかった。

(さとみ)

山をけずって木がなくなったせいで、川がかれてしまったのは、すごくもっ  
たいないきがする。もけいをみたらびっくりした。森がなくなっていた

(まさる)

### 真光寺川のひみつ どうして流れが変わったのか？

3年生3学期の社会で、地域の移り変わりを扱う単元があって、能ヶ谷を扱  
ってきました。その時の授業で45年前の地図と4年前の地図を比べてみる授業  
をしました。2枚の地図を見ると、真光寺川の流れが大きく変わっているのがわ  
かりました。特に鶴見川との合流点あたりは、まったく変わっています。新しい  
流れができています。

6月にたんけんに行った場所なので、子ども達にもイメージできる場所です。  
この川の流れの変化を子ども達に考えさせようと考えていました。なぜ、流れ  
が変わったのか？それを真光寺川のなぞと称して子ども達に考えさせたい理由に  
はふたつあります。

1つ目は、川の流れの変化を地域の土地利用の変化と結び付けて捉えさせたい  
ということです。つまり、住宅開発による森林や田んぼの減少に関わっての治水  
という視点からです。

もう1つは、今の真光寺川の姿が本来の姿でなく、人の手が入った人工の川だ  
ということです。川幅が広げられ流れは深く、コンクリートで固められたまっす  
ぐな川の姿は、典型的な都市河川の姿です。

治水事務所の資料

いつから今の川の流れになったのかを確かめるために、まず町田の市役所に電  
話をする、東京都南多摩東部建設事務所を紹介してくれました。そこに連絡す  
ると、合流地点は川崎市になるので神奈川県川崎市治水事務所を紹介され、やっ  
と話しを聞くことができることになりました。翌日、事務所の方がわざわざ学校  
まで資料を届けにきてくれました。

改修されたのは1982年(昭和57年)頃だということで、理由は住宅地が増え  
たことと、合流地点あたりの田んぼがマンションなどになり、農業用水としての  
需要がなくなったので、すぐに鶴見川に水をすてることになったことが分かりま  
した。

授業では、1954年と1995年の地図を比較するところから始めました。気が付

いたことが次々とおされました。「山や木がなくなった」「田んぼが減った」「団地や家が増えた」という声確かめるために、用意していた能ヶ谷の写真(今と5年前)を見比べてみました。その変化に子ども達は声をあげて驚いていました。

46年でこんなにかわっちゃった。思ってもなかったくらいしぜんがなくなっているんだ。  
(ともや)

しんこうじ川のことをすごいわかった。46年前と5年前のちがいがすごいわかった。  
(だいゆう)

右はじにある家は同じ家なの分かりますか

みんなで、カワセミの学習の中で分かった木や落ち葉の働きを思い出しました。川が太く、まっすぐになっていったわけは洪水を防ぐためであり、それは家や団地を建てるために、山を崩し木を切ってしまうたり、田んぼをうめて家にしたりして、自然のダムをこわしてしまったからだと理由でつながっていきました。ちょうど国語で『川はいきている』(富山和子著 講談社の青い鳥文庫)の授業をしていたので、そこでの授業と結び付けて子ども達が感想を書いています。

人が川をよごしているのはわかっていただけ、水田が大切なことがわかった。昔はこう水で大変だったけど、今はもっと大変なことになっていたのは初めて知った。  
(すみれ)

どうして分からないんだろう。林とかがへって大こう水があるのに・・・。

川は大切!  
(なつき)

いいかげんに、人間ががまんしたほうがいいと思う。つーか私も人間だし・・・むかしの人はえらいなあと思ったよ。  
(あかね)

やっぱりこう水のとめ方はむかしのままでええんちゃうかなあ!

(まさる)

生きているたぬきにさわってみたい

「たぬきがまだいるらしい」ということが話題になった緑道のたんけん。なま、カワセミに続いてたぬきも子ども達の関心ごとになっていました。そんな時、大きな拾い物をしました。私が病院に行く途中、偶然に交通事故にあったたぬきの死体を見つけたのです。学校の経っている山のすぐ裏の道路で、この学校近辺に住んでいたたぬきの可能性が高いと思います。

さっそく2人の先生といっしょに拾いに行きました。比較的きれいな死体だっ

たのですぐに連絡をとって剥製にすることにしました。子ども達には、教室でそのことを紹介して、実物のたぬきを見せました。子ども達はなでたり、足を触ったり、しっぽをいじったりと夢中になっていました。このことが、子ども達のためきに対する興味を爆発させました。

## たぬきの死体と子ども達

**真光寺川は新川といわれていた。**

**昔は曲がりくねっていて、あふれたらしい**

社会の授業では、2学期後半「小山田・図師の今・昔」という単元が今年度から新設されました。2組は鶴見川ではなく、真光寺川を扱っているので、それに関連して「能ヶ谷・真光寺町の今・昔」というように、対象の地域を変更して取り組むことにしました。

能ヶ谷は、子ども達が魚採りに取り組んでいる場所で、何回も足を運んだところです。なまずの学習でも取り上げたように、急激に開発が進んでいる所であり、両側を山に挟まれた谷戸でもあります。

たんけんは、能ヶ谷の昔の様子や生活・真光寺川の様子などをインタビューすることが課題です。遊水地から、鶴見川との合流点までを範囲として、班行動になります。各班に地図・記録用紙・たんけん隊の名刺・子どもと教師のお願い文を持ち、トランシーバーを持っての出発です。たんけんといえば、3年生の社会・総合学習「柿」で13回の経験があり、今年も8回目なので子ども達にとっては、なじみの活動です。(そのうち班行動は11回目です)

昔ながらの谷戸の風景から、突然景色は一変します

古そうな家を求めて、6つの班は思い思いに出発しました。「大きな太い木がある家なんか可能性があるよ。」などと声をかけてやります。また、いくつかの具体的な人の名前と家の位置をあげて、手がかりになりそうな所を示しておきました。井戸掘り名人の神蔵さん・田んぼを借りたことのある石川さん・たぬき実行委員会で去年国語で勉強した『いまどきの町たぬき』を書いた桑原さん・昔の地図で見ると古くからあるアカツキスポーツや夏目モータースなどです。

余談ですか、子ども達が出発した後、私は再び「カワセミ」を見ることができました。トランシーバーで知らせると、あわてていくつかの班がやってきましたが、もう飛んでいってしまった後でした。

2班にトランシーバーで呼ばれたので行ってみると、吉川さんという方から、

吉川 奏長さんが書いた『広袴小史』と『私の体験記』という自主出版の本を借りることができたのでした。

金ばのおばさんがとつぜんあらわれた。ひびったけどよいおばさんだった。そのだんなさんの『私の体験記』という本を2さつくれて、なんだかうれしかった。(そうし)

5班は森さんという農家の家で昔から使っている野菜洗いの機械を見せてもらうだけでなく、実際に使わせてもらったようです。

たんけんおもしろかった。でも、つかれた！だけどもりさんていうひとにブロッコリーをもらったよ。とってもうれしかった。そこでかぼちゃやだいこんもあってた・しょうたろうがあらわしてもらったよ。そのブロッコリーは花がさくんだって。たのしみだなあー。(りりこ)

市場やのうきょうで売っていないようなきかいがいっぱいある所があった。その人がいろいろおしえてくれてよかった。(ともや)

神蔵さんを最初から狙っていったみょんひは、無事その家を見つけてインタビューに成功したようです。彼女はグループ研究の希望でも、「神蔵さんに聞く」というテーマを希望しています。また、この付近にすんでいるけんは、くわしい話をしてしている石川さんの家を狙って班をひっぱっていったようですが、ざんねんながら留守で話が聞けず、くやしそうでした。3年生の頃は、話が聞ければそれで満足していたのですが、4年生の後半になると、インタビューの仕方も見通しを持って、また、その情報の質にこだわるようになってきました。子ども達の成長が感じられます。

真光寺川の近くに住んでいる人に、インタビューしたんだけど、「わからない」と答えた人も多くてちょっと大変だったです。でも、わかる人は、とてもしんせつでいろいろ教えてくれました！だれもわからなかったらどうしよう、と思ったけど、みんなとてもていねいに教えてくれました。はっきりいって、こんなにたくさんわかるなんて思ってもみませんでした。すごくつかれたけど、いろいろわかってよかったです。でも、帰るときにまよったのは、すごくあせった。あと、わたしたちがインタビューした人たちは、ほとんど当たりで、みんな(真光寺川)のことを知っている人だったです。(あかね)

この後の、真光寺町たんけんでもそうなのですが、特徴的だったのは、子ども達が「たぬき」「カワセミ」「カマツカ」「なます」など、自分たちのこだわりや視点を持ってインタビュー調査をしていたことです。今までの学習の中で見つけてきた興味や関心が少しずつ子ども達の中にできてきているのでしょう。

たんけんのまとめの新聞から

### 真光寺は真光池だった。青い龍がすんでいた？

2回目の社会のたんけんは、学校周辺の真光寺町にでかけました。ここは能ヶ谷に比べて未だ開発の進んでいない場所と、鶴川第2区画整備事業の進む鶴川台の地域がありますが、今回は前者の方にでかけました。まだ田んぼが残っているところで、真光寺川もまだ小川程度のところですが、しかし、一部はどぶのようになっていて、下水の整備が遅れている所でもあり、生活廃水がたくさん流れ込んでいます。

大きくは2つの流れがここで合流します。水は田んぼに使われています

堰がたくさんあります

昔の流れも残っています

午後の真光寺町は留守が多く、思ったようにインタビューできなかったようでした。しかしここでも、昔はたくさんの生き物がいて、自然が豊かだったことが分かってきました。また、開発も進み真光寺川がなくなるといううわさも聞きつけてきました。

また、観泉寺ではかなり詳しい昔の話が聞けたようです。真光寺という地名の由来もここから分かりました。子ども達の感想から、その様子を紹介します。

ほとんどのるすでした。いた人はほとんどくわしい人だった。おじさんにたずねた。(名前は小野重雄さん)大金持ちの人がいた。るすだった……。真光寺川のカニ(毛ガニ 黒色で8~10cm)を食べていたらしい。うまいのかな？

(な・あきら)

ターゲットのあんどうさんがいなくてざんねん。だけど、少しくわしい人は何人かいてよかった。ときどき男女がわかれてまいごになったけど楽しかった。小野さんとか榎本さんとかに昔の生き物の話を聞いた。(もっといっぱい聞いたけど) だけでもうちちょっといろいろ聞きたかった。(じゅり)

今回 たんけんは前より「るす」とか「ひっこしてきたばかりだから、しらない」とかがおおくて、なかなか聞けなかった。岩沢さんという人に聞いたら、真光寺川がなくなるかも!(うわさ) っっていった! たいへんだ!

(や・なおこ)

おばさんやいろいろな人にしりょう(情報)をもらって、最後に寺にたどりつき、さいこうにいいインタビューができた。(ともや)

真光寺には真光池という泉があって、そこに今の永山を通過って青い龍がやって来たという伝説があるようです。そもそも、真光寺という寺はなく、豊かな谷戸の水ときれいな井戸の水があり、そこからついた地名だということが分かりました。これは、町田の昔話としても残っているようです。

また、3つの班は「これだけでは新聞にまとめられない」という訴えもあったので、残りの班が新聞作りをしている時間に何軒かの家を指定して、たんけんにかせました。3班は、職員室でも紹介してもらった近所の平本さんというお宅におじゃまして、1時間近くもじっくりと話をきかせてもらいました。1班には町内会長さん宅を勧めましたが留守で、その近くにある元町内会長さんのお宅におじゃましたようです。

平本さんには、以前鶴川小学校あたりから、「ながせとぼり」という一本の流れがでていたことを聞き取ってきました。和光学園ができる前は、ここが真光寺川の1つの水源地だったわけです。また、カワセミたんけんてで取り上げた枯れてしまった沢は、「谷戸ぼり」と呼ばれていたことが分かりました。2つの流れが今はなくなってしまったわけです。「真光寺川がなくなる」といううわさは、まんざら根拠がないわけではないのかもしれませんが。

子ども達がまとめた新聞から

### 今の真光寺川の本当の姿が見えてきた

班での新聞作りが終わると、今度は発表をします。それぞれの発表が終わった

後で、もう一度クラス全体でまとめをしました。教師から発問をしながら、子ども達は発表を思い出しながら発言し、分かったことをみんなで確認し合いました。まとめてみると、

#### <能ヶ谷たんけんでわかったこと>

- ・10年前まではホタルもいた。急に自然がなくなってきている
  - ・川はくねくねで浅かった。コンクリートでなかった
  - ・台風が来ると、洪水になって田んぼがめちゃくちゃになった
  - ・ウナギ、シジミもいた。ギバチ・カマツカ・メダカもいた。
- とてもきれいな水で、飲み水、洗濯にも使ったし田んぼにも使った。
- ・メダカは今でも残っている。大発見かも？カマツカもいる。大切な自然がまだ、なんとか残っている
  - ・カワセミもいっぱいいた
  - ・昔、真光寺川は新川といった
  - ・田んぼのあたりは昔、うら谷戸といった。川の両側とも山だった。
  - ・真光寺川は国が管理する川。一級河川という。(もしかして、本当は長い川だったのか？疑問)

#### <真光寺町たんけんでわかったこと>

- ・真光寺は昔、真光池といった。青い龍が泉に住んでいるといわれた
- ・真光寺川がなくなるといううわさがある
- ・ながせどぼりという小さな流れが和光鶴小あたりからながれていたがうめた  
この辺も最初の一滴だったらしい
- ・家が増えて、生活廃水で川がきたなくなった。田んぼや畑が減って家になっている
- ・毛ガニもいた。ホタルもウナギも。山にはキツネもいた。自然がいっぱいだった。
- ・プールがわりに泳いだ。湧き水があちこちにあって飲めた。

ここで聞いてきた昔の真光寺川の様子やそこでの生活・遊びの姿は、川と親しんできた子ども達にとって、理想の真光寺川像になっていったようでした。2学期最後の作文の中で、「こんな真光寺川に」という課題を含めましたが、「水を飲んでみたい」「泳ぎたい」「毛ガニを食べてみたい」などという姿がたくさんできます。

たくさん生き物がいた話をたくさん聞いてきて、今の真光寺川の様子と比べ

て、自然がすっかりなくなり、よごれていることが、自分たちの見た風景や川での遊びでの体験を通して実感されてくるのだと思います。今の真光寺川の姿が子ども達の中にしっかりと見えてきました。

## 真光寺川を清流にする会との出会い

学習の拠点を鶴見川から真光寺川に移した時の理由の一つに、「真光寺川を清流にする会」の存在がありました。最初は、6月に朝日新聞に載った「清流にする会」の記事をりょうが教室に持ち込んだことでその存在を知ることになりました。初めて真光寺川に出かけた時も、川の手すりにこの会の看板がかかっていました。

11月の終わりになり、再び朝日新聞の『暮らしの風』に「清流を創る」という記事が載り、再びりょうとた・しょうたろうから持ち込まれ、授業で子ども達に紹介しました。真光寺川での体験や学習をくぐった子ども達の反応は、特に興味を示さなかった1学期とは少し違っていました。

川をきれいにする運動をしているお年よりたちは、歳をとっているのに重労働をしてすごいと思った。 (ひろし)

ごみがふえていやだ。前、さくらがつかまえたようなナマズがへらないようにしてほしい。 (けんと)

川をきれいにするのはたいせつだと思う。これからもたいせつにしたい。

(な・あきら)

いろんな人が川をよごしていて、川をきれいにする人がいて、いろんな人がいる

(やちほ)

「清流の会」の概要を、会の世話人である山口拓郎さんからいただいた資料を元にしてまとめてみると、

2000年1月に有志8名と真光寺川を歩き、川への思いを語り合い、「真光寺川を清流にする会」が結成された。町田市の市民大学受講生を母体とした環境問題ネットワーク「エコネット町田」と、流域の自然観察愛好家が集まって誕生した。

会員は50歳代から70歳代で現在の会員は20名に増えた。

4月から第2土曜日を作戦日と決定し、地区を区切りゴミ拾いを始める

定期的に透明度の定点観測をしている

<今後の展望として>

子ども達と川の関わりを大切に

共同で観測・ゴミ拾い等親睦を深めたい

真光寺川復活への参画

暗渠にした真光寺川を地上に戻す計画もあり、自然に富む子ども達の遊べる流れにしたい。「会」として関係筋に意見を具申していく

この「真光寺川を清流にする会」山口さんとの出会いは、偶然ともいえます。こちらから連絡をとろうと、朝日新聞社に連絡先を教えてもらっていました。しかし、先方から連絡があったのです。

能ヶ谷たんけんの時に子ども達が持っていったお願い文、それがきっかけになったのです。たんけんに行ったのは月曜日。その週の土曜日は、「清流の会」の活動日でした。鶴見川との合流点でクリーン作戦を実施していた山口さんは、こみの中に、子ども達のお願い文をみつけたのです。その中には、学校名とクラス、連絡先、担任名が書かれていたというわけです。

山口さんは、手紙と資料を送ってきてくれました。「何かお役にたてることがあれば・・・」と記されていました。そして、会の活動や自分で書かれた幾つかの記事・原稿などを同封してくれました。

子ども達にこの事を紹介すると、驚いていました。そして、山口さんがインターネットに書いた会の紹介や活動に関するページ(記事)を子ども達と見ました。

3学期のグループ活動でいろいろと教えてもらおうということで、こちらから、4年2組が学習してきたことや、みんながこれからやりたいこと、そして、真光寺川に対する思いを、今度はこちらから伝えようと呼びかけて、一人ひとりが作文を書き、送ることにしました。その中には、3つの事を書こうということにしました。1つは2学期に学習して心に残っていること、2つ目は、真光寺川がどんな川になってほしいか(とんなことをしてみたいか)、3つ目は、3学期にやってみたいことです。

子ども達の作文を読んでもみると、思った以上に自分たちの思ったことややりたいことがしっかりと書かれていて、1人ひとりがよく考えていることが分かりました。3学期はこの会とつながりながら、子ども達が調べたりやってみたいことを元にして、テーマ別の活動とまとめに取り組んでいこうと思っています。

最後に、子ども達の作文を幾つか紹介しようかと思えます。

## 2学期の総合学習

## 吉田 匡

4年の2学期に勉強したことで、1番楽しかったのは、真光寺川の勉強です。たんけんに行ったり、川に入ったり、さかなをとったりするのがすごく楽しかった。真光寺川の勉強をしてからは、いっぱい川にはいった。じゅぎょうでも川にはいったから、さかなをいっぱいとった。前までは、川があってもべつになんにもしなかったけど、いまは、川の水がきたないかどうか見たり、きたなかつたら、「きもちわるいから早くきれいにならないかなー」と思うようになった

ぼくは、今の真光寺川はきたないから、たんけんて川に入るとき、「あまり入りたくないな」とさいしょはそう思っていた。だが川を見たとき「はいりたいなー」と思う川になって、いろんなさかなやとりがあつまってくる川になってほしい。

これからは、森がへっていくのといっしょにへっているタヌキのことを、そう木林でかんさつしたり、どういうところにすんでいるかおいかけて調べたいです。

## 真光寺川のこと

### 野村 じゅり

この4年の2学期で勉強したことの中で、1番わかったりしたことは、川をむりやりまっすぐにしたり、人工的に川を作ったりするのはあまりよくないってことだった。人にとっては、いいと思うけど、やっぱり、まわりとかをコンクリートや、ていぼうにしたりすると、国語の話にもぶつかるけど水害になりやすい。人工的に川や池を作るのも同じ様なことだと思う。

今みたいなコンクリートでまわりをかこむこととかは、はっきりいって、ほんたい。

今の自分で真光寺川がどんな川になってほしいかという、真光寺川をうめたりしない地上にだして、その川の中とかまわりをコンクリートにしないで自ぜんの川にしてほしい。真光寺川を清流にする会の人がそういうことにとりくんでいるのを、すごいと思った。

これからの3学期でどんなことを調べたりしたいかという、メダカとかカワセミ、タヌキとかを調べたい。どうしたら、たずかるかとか、どんな所にいるかっていうことも知りたい。

## 真光寺川

### かせ あきら

心にのこっていることは、川がよごれてしまっていること。川がよごれたら生

物にあえなくなってしまう！でも川にはオオサンショウウオやカマツカがいる楽しい川になってほしいあ。ほんとうに川は大切なことがわかった。川の水をのんでいるのだから。大切にしなきゃ！でもどうして川をよごすのだ！と思うけど・・・そうしなきゃ！人が・・・。毛ガニをくってみたい！えへへ・・・はっ！川でおよぐのはすごく楽しい！大好きだ。じゅぎょうでいちばん好きかもしれないなあ。あと真光寺川でカマツカを2ひきつかまえた！先生がメダカを捕まえたって言ってた。さくらもつかまえたらしい。なつまで水そうにいたらしい。またカマツカをつかまえてかってみたい。メダカもふやしたい。ふやして川ににがしたらどうなっちゃうかな。やっぱりブラックバスにたべられちゃうかなあ。そしたらいみないなあ・・・メダカが真光寺川にいたてというのはニュースかも！カマツカもいたんだからどんどんきれいになっているのかも？しれない！また、カマツカにあいたいなあ・・・。2ひきもいたんだ。いっぴきくわれていっぴきは水そうからとびはねてひからびてしんだ。かなしいー！カマツカの絵をかいて、カラーコピーして絵はがきにした。まだ家にある。とっても大じだ。

あと川君、がんばってきれいになってくれ！またおよがせてくれ！楽しいんだよね。また、つりをさせてくれ。あとカワセミを見たい。ずかんとかしゃしんとかでしか見たことないから本物を見たい。タヌキもへっちゃったから見たい。足あとを見つけた。いっぱいあった。犬ににてた。(足あとのこと)。すごくきょうみがある。いたら、カメラでとって見たい。先生がタヌキの死体を見つけた。こうつうじこらしい。かわいそうでやっぱりへっているのがわかった。

## 真光寺川を勉強して

森 奈緒子

### 2学期に勉強したこと

私達は社会や総合で川の事を勉強した。昔の事、川の周りのこと、その中でいるいろまとめてきました。

総合では、真光寺川へ行って魚をとったけど、3匹しかとれなかった。その時思った事は「昔はいいなあ。もっといっぱい魚がとれたんだろうな。」と毎回思っていたよ。国語では、『川は生きています』をやっていて1ついんしょうにのこった絵があった。昔のおひゃくしょうさんが畑にこうずいで岩がきたので困っている絵です。その絵を見ると、水はいきおいをつけるとすごい力になるんだなと思う。それと、1つの言葉をおぼえている。「いたちごっこ」。人々がていぼうにするとこう水。次はだいじょうぶだとていぼうを高くしたから、そんなふう人々は考え、次にきたこう水はもっとひどい・・・そんな事は大人になって

も私は勉強をしなければわからないまま生きていたんだと思う。

#### 今後の真光寺川

私が今後の真光寺川にのぞむ事はすきとおり、清流にすむ魚ばかりの川、そして周りは山があったほうがいいと思う。ナマズ、ハヤ、ギバチ・・・こう水がおきてもいいから、昔のような川にしてほしい。子どもだけじゃなく、国中のみんなが協力しあってきれいでさわやかな全たいになるといいな。

これからの勉強では

#### ・やりたい事

前のように生き物をとって川遊びをしたり、新しくゴミとりもいいかなって思いました。

#### ・調べたい事

タヌキ、オイカワ、カマツカの事をしたい、それとタヌキをよくかんさつできるように、学校でかいたいな。これからは森や川を大切にしたい。動物、人々のためにも。

#### 最後に 子ども達が今学んでいること

2学期の終業式は、12月18日に新聞に載った河川審議会答申（建設相の諮問機関）のニュースのことを子ども達に話しました。「洪水と共存する治水」へ。国もいよいよ昔ながらの治水のあり方を見直す姿勢を示したのです。川をまっすぐにし、コンクリートで固め、なるべく早く海に水を捨てる。一世紀にわたり続けられてきた治水の考え方から、「川はあふれるもの」という本来日本人が川と付き合い合ってきた考え方へと方向転換していきます。

「川のはらんを認める」方針の背景には、今までの治水が一定の成果をあげたとしつつも、自然環境の保全と従来の治水の限界をあげています。

子ども達が学んできたことは、今、国が考えていることです。まさに現代社会最先端の問題なのです。子ども達にこのニュースを紹介しながら、「みんなが勉強していることは、今国が考えているくらい大切なことなんだね。」と締めくくりました。昔ながらの治水に戻す。その中で新聞記事に報じられていた幾つかの具体策（はらん域を設定し、輪中提の復活や住宅地のかさあげ、水害防備林の整備など）を聞いて子ども達は、「輪中がいいよ、輪中が！」と口ぐちに話していました。